

幼稚園満3歳入園における保育内容(人間関係)の課題と展望

—満3歳入園調査研究委託の実践を通して—

The Prospects and a Problem of Childcare Contents (Human relations) in Kindergarten a full 3 years old Entering a Kindergarten.

— Through Practice of a full 3 years old Entering a Kindergarten Research Trust. —

牧 正 興

Seikoh Maki

これまで幼稚園入園は学校教育と同じく、3歳の誕生を迎えた後の4月入園が常識的に実行されてきた。ところが、学校教育法には「満3歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児とする」とある。今日、養育者自身のQOL(生活の質)を高めることも育児支援の大きな課題である。保育所が養育者の就労等による「日々保育に欠ける子」の条件を満たすことが括りとなっていることから、就労しない限り現実的には育児負担から解放されることはない。

満3歳児入園は、積極的な意味ではその負担や、少子化による人間関係の希薄さをより早期に埋め合わせるべき場を提供することにもなる。しかし、そもそも4月の入園児で初めての集団生活を送っている3歳児も、必ずしも安定した園生活であるとはいえない。したがってその途中での新入園児の増員・参加は、さまざまな問題発生が予測されよう。本研究はこうした満3歳児入園を実践的の検証し、そこにどのような問題があり、これから実現されるであろう「認定こども園」に活用できるかの課題でもあった。結果的には教師側の若干の混乱は避けられないものの、満3歳、3歳児そのものの園生活には否定的な要因は見出せなかった。むしろ双方の発達の要因としては肯定的な側面が検出できた。

Key Word : 満3歳、人間関係、「認定こども園」、遊び、相互作用、安全管理

I はじめに

今や幼保一元化に向けたさまざまな取り組みが保育現場でなされている。筆者は平成14・15年の2ヶ年にわたってS県西部で文部科学省(以下、文科省)の調査研究委託を受けた幼稚園において満3歳児入園の試みに関わった。幼稚園は3歳以上の幼児の教育機関として位置づけられ、3歳の誕生を迎えた後の4月に入園することが常識となっていた。しかし、法的(学校教育法第7章 幼稚園)には満3歳になれば入園できるもの(入園資格 第80条:幼稚園に入園することのできる者は、満3歳から小学校就学の始期に達するま

での幼児とする)であり、その4月を待たずしてその教育を受けることができる。ただ、幼稚園は常識的には4月入園であり、保育所の「日々保育に欠ける」ことは異なると考えていた。

しかし文科省は「認定こども園」(その当時は「総合施設)への取り組みや、子育て支援等に向けたさまざまな調査研究委託を行う中で、3歳児の発達の特長や、満3歳に成りたての幼児がその月齢によってどのように異なるのか、あるいはその教育・支援はどのようなものが望ましいのか、等について特に人間関係に焦点を合わせ、保育内容(人間関係)を理解する手立てとして、委託園で行われた実践例をもとに考察する。

II 調査研究委託園の概要

1. 指定地域および協力園の状況

S県とN県の県境に位置する人口1万人弱の某町。本地域には保育所が5園あり、幼稚園は本事業に研究協力園である本園（私立）のみである。園児数は、満3歳児8名、3歳児24名、4歳児21名、5歳児29名（平成16年3月1日現在）計82名の仏教系中規模園である。

当園が研究協力園として満3歳児の受け入れを開始したのは、平成12年度からであるが、12年度には入園の希望者もなかった。平成13年度の1名が入園し、14年度末から15年度にかけては8名が入園した。満3歳入園に対する保護者に期待は大きいものがあり、同時にこの頃から満3歳児を既存の3歳児クラスに年度途中から入園させ、教育を受けさせることについても、双方の保護者の理解も得られるようになってきた。

2. 研究方法および研究内容

名称：満3歳児入園指定地域連絡会

委員構成：委託園理事長、園長、PTA会長、学識経験者（幼稚園教員養成系短大・大学教員）、および県・地域教育指導主事等。

活動内容等：概ね年3回の定例連絡会の中で研究協力園の計画・活動報告と経過報告。

および、満3歳児学級の視察、委員を中心とした地域の啓蒙をかねた「幼児教育シンポジウム」が開催された。

3. 研究実践

① 3歳児の発達的特性

満3歳児を入園させるにあたって、まずその発達特性について論議された。確かに3歳児といっても、満3歳児と4歳を迎えようとしている幼児では、その月齢によって発達なかでも人との関わり（人間関係）においてはその差が大きいことは確かである。したがって、満3歳になりたての幼児が、その年度の途中で入園してくることはそれなりの対応が必要となろう。

しかし3歳児といえども幼稚園生活では4月の入園を考えると、満3歳児とはいうものの、そもそも園生活の違いも数ヶ月のところである。集団生活も初めて

という子どもがほとんどであり（時には保育園からの転園してきた子もいる）、入園当初は親から離れて生活することに不安をもつ子どもも多い。その不安を軽減するために、時にはしばらくの間親ともども園生活を体験しながら、親、子、保育者の三者で生活をつくるということも、子どもの安定した気持ちを成立させていくうえで必要なことである。

園生活を安定した気持ちで過ごすようになると、少しずつ子どもたち自身での遊びが多くなっていく。一人遊びから並行遊びへとといった姿が多く見られるようになり、友だち関係も複数人へと広がりを見せる。しかし、砂場などで一見一緒に遊んでいるように見えても、一人ひとりがその場を占有しているような気持ちになっていることが多く、ほんの些細なことでも（例えば、自分のそばの砂を他の子が使ったとあって、その子を突き飛ばしたり）トラブルを起こしてしまうことも少なくない。

反面、気の合った友だちとであれば、ある程度の時間、遊びを持続し、遊具なども共有する場面も見られるようになる。他の子に誘いをかけたり、泣いている子に「どうしたの？」と心配そうに声をかけたりすることもある。しかし、前述したように、3歳児においては、生まれ月、あるいは家庭での生育歴による個人差も大きく、活動を設定する場合にも無理なくかわられるような十分な配慮が望ましい。

② 満3歳児入園に際しての配慮事項

以上のことから、満3歳児入園を実施するにあたっては、既存の3歳児クラスに満3歳児を随時入園させる体制をとることから、保育補助員を配置し、幼児一人一人の対応がよりスムーズに行われるよう配慮された。

日案についても、基本的には3歳児に準じて作成したが、満3歳児の発達段階からして興味関心の持続性や活動の困難さを予測できる事柄については、基本的にはその子にあった独自のプログラムを組み、よりスムーズな活動への導入に配慮した。また、個人差やその子の意欲の持ちかたに留意し、3歳と同じ活動を希望する子どもについては、その活動に参加できるよう配慮した。満3歳児独自の年間指導計画案（図1）も立てたが、これを固定的なものと考えず、活動の目標、内容には融通性をもたせ、弾力的に対応できるよう配

幼稚園満3歳入園における保育内容（人間関係）の課題と展望

満3才児（もも組）	ねらい	明日も幼稚園にいきたいな			・新しい環境になじみ安定して過ごす ・四季の自然にふれ、のびのび遊ぶ
全学期					
主題	信順（おがみます）	讃嘆（たたえます）	歓喜（つよくのびます）	照育（おそだて）	
子どもの育ちの大きな流れ	環境の変化にとまどい、不安定な精神状態のまま登園する	★遊びを通して、集団生活の第一歩を踏み出そうとする ★基本的な生活習慣を身につけて自立しようとする ★他の園児と一緒に園の行事に参加しようとする			
環境構成	くつろいだ雰囲気の中で、ゆったりと子どもを受け止め、一人ひとりを大切にする	自然にふれる	友達とかかわる	自分のことは自分で出来るようにする	
予想される幼児の活動					
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもの発達・性格・習慣等をよく把握し、その子にあった対応を心掛ける 保育者との1対1の触れあいをできるだけ多く持つようにし、一人ひとりの要求を受け止め満たす 保護者と細かい点もよく話し合っ、子どもの状態を相互に理解し、信頼関係を築いていく 				

図1 満3歳児用指導計画（案）

表1 年少児 活動記録（人間関係部分を抜粋）

月	活動内容	3歳児	満3歳児
10月	長いもので遊ぼう 「縄跳びを使って遊ぼう」	・名前の順に並ぶことができるようになった。 ・縄跳びにとっても興味を持つ。	・縄を一本線にして3本くらいにつなげ、それを橋にみたてて、その上を落ちないように渡る様子が見られた。
	音遊び	・曲に合わせてリズムを打つことが出来た。	・「秋」の歌を歌ってみる。 担任を真似て歌ってみようとする子もいれば、歌わない子もいる。
	秋を見つけに出かけよう (園外保育)	・排泄を促すと順番を守り各自排泄をする。 ・帽子をかぶり名前の順に並び手をつないで散歩に行く。	・途中道に花が咲いていたり、虫がいると立ち止まる子がいたので、みんなについていくように声をかける。
	のりベタベタ くるくるベタベタ (ローラー遊び)	・紙と紙をのりを使って上手に貼ることが出来る。	・のりをうまく使えない。 ・ローラーに興味を持ち、自由にローラーを転がして気が済むまで転がし続ける子もいた。
	秋の遠足	・前日から楽しみにしているようで、友達との会話や自由な遊びの中でも遠足ごっこをしている姿が見られた。	・戸外での食事にみんな喜びいつもより食欲も出ていた。

10月	折り紙でドングリを折ってみよう	・折り紙の色を選ぶときに「茶・黄緑」などの声が出た。	・3歳児とは別に時間を作り活動を行う。 ・一枚目は担任がそばに行きよく説明をしながら折っていく。意欲を持って聞いていた。二枚目は自由に折らせてみた。
11月	体育教室	・担当の教師の指示に従い準備運動、ゲームに参加することが出来る。	・別室内で行う。 みんなで教室をうさぎ・かえる・くまの真似をして歩き回る。
	新聞紙を使ってビリビリ怪獣になろう	・教室いっぱいに広げた新聞紙に興味を持ち、ビリビリ破る担任の真似をして破り始める。 破るだけでなく、投げたり、丸めたり、身体に巻き付けたり、寝そべったりと展開させることが出来た。	・みんなの真似をしてビリビリ破り始めた。
	音楽教室 合奏をやってみよう	・太太鼓・小太鼓・シンバル・タンバリン・グロッケン・木琴などの楽器を使って簡単な合奏を試みる。パート別に練習を行なったが、皆意欲的に取り組んでいた。	・3歳児のクラスに戻り、一緒に曲に合わせて鈴を振る。参加する子と興味を持たない子がいるが、強制しない。
12月	クッキングケーキをデコレーションしよう	・担任の説明をよく聞き自分たちでクリームをのぼしトッピングをきれいに飾ることが出来た。	・飾り付けをする事よりもデコレーションのお菓子を口に入れ食べてしまい、作るより早く食べたいという気持ち強く飾り付けにならなかった。
	生活発表会で遊戯の発表をする	・クラスの子ども達が、全員の踊りを覚えてしまうほど体を使い表現する喜びを感じていたが、本番は泣いてしまい舞台上に上がれない子もいた。	・3歳児とは別の踊りを教え、みんなで舞台上に上がり踊っていた。 ・B男は、3歳児といっしょの踊りが気に入って、舞台上で3歳児と一緒に楽しく踊っていた。
1月	チームを作ろう	・初めてチームの中に満3歳児も入れてみる。 ・チームの子達が満3歳児のお世話を積極的に行う。 (身の回りの世話・トイレへ連れて行く等)	・今までは満3歳児だけのグループを編成していたが、3歳児と一緒にになるとチームの上下(年齢の)関係を無意識のうちに認め、友達の話を聞き、ルールを守らなければという意識が芽生えた。
2月	豆まきをしよう	・紙芝居や絵本で鬼を退治するシーンを思い出し、やる気満々で豆を持ち鬼の居る園庭に出かけたが、勇敢に投げつける子は半数で、あとは泣き出してしまった。	・鬼の姿を見ただけで全員号泣してしまいます。その後排泄の失敗が多く一人ではいけない様子であった。
	散歩に行こう	散歩の大好きなみんなは、歩きながら「さんぽ」「園歌」などを口ずさみながら、いつもと違うペア(満3歳児)と手をつなぎリードしながら嬉しそうに歩き、25分で目的地に到着した。	・3歳児の子とペアになり手をつなぎ歩く様子は、とても嬉しそうであったが、段々疲れて歩くスピードが遅くなってきた。
	英語で遊ぼう	・講師のE先生にも慣れてきた様子で、日本語を使わない先生の言葉にも感覚で理解しているのか、なんでも「OK」である。	・担当教員のそばで、教室の後方よりE先生を見ている。 ・しばらくはみんな座って観ていることが出来るようになった。

慮した。

なかでも満3歳児にとっての大きな課題は、さまざまな活動を通して保育者の援助のもと子ども同士の関わりを高めるための人間関係をどのように築きあげるかであった。

③保育上の配慮事項

随時入園体制をとっているため、入園時から園に慣れるまでの期間を一律に設定せず、一人ひとりの様子を見ながら個人差に対応できるよう配慮することとした。

平成15年度活動の記録のなかで、各活動内容の人間関係に関連する記録は表1の通りである。また、満3

歳児の入園によって、担任そのものが入園したての満3歳児に目を奪われ、一人での対応が困難と考えられ

表2 お便りの記録（A子）

家庭から	担任から
<p>(7月)</p> <p>オムツが取れないので心配ですが、幼稚園に行くのを楽しみにしているみたいです。</p> <p>年少のお友達がたくさんで、嬉しい様子です。明るく、優しく、元気な先生方で安心です。お手数をかけると思いますが、どうぞ、よろしくお願ひいたします。</p> <p>家でもお風呂上がり、紙オムツを嫌がり、パンツを持ってきて自分でしないと納得しません。大人のするようにいったり、行動したりして、親の関わり方を考えさせられます。</p> <p>(9月)</p> <p>お尻拭きもたせました。昨日は、ピンクの輪ゴムで髪を結んでくださってありがとうございます。上機嫌で帰ってきました。R先生にお礼をお伝え下さい。</p> <p>すみません、S先生？と聞くと、R先生と言うもので、サ行の発音がうまくいかないからでしょうか？でもお兄ちゃんの影響で言葉が荒いのですが、おしゃれをするのは、好きみたいです。それに、あっちこっちで年長さんから声をかけてもらうのが嬉しいようです。</p> <p>(10月)</p> <p>言葉で伝える事が多くなってきました。休みの時も、「幼稚園に行く！」とって「今日はお休み」と言うのがガッカリします。上靴サイズがなくてずっと買ってあげてなかったのですが、お友達が皆はいていたので、少し大きいですが買いました。嬉しくて、家の中でも一日中はいて歩き回り、何度も見せていました。</p> <p>最近、自己主張が激しくすこし対立しています。今朝、お姉さん達が「Aちゃんのシューズ小さくてかわいい」と触ろうとしたら、思わず、靴を取って、たたこうとするのです。</p> <p>結構思い通りにならないと、手を出しているのでは？叱られると、すこし、いじけて泣きます。</p> <p>(11月)</p> <p>今日、「○ちゃんをガブツとした「△ちゃんのおモチヤを取ったから」「エンエンってしたよ」と言っていました。「ガブツとしたら痛いよね」と言ったらブーとしていました。お兄ちゃんとケンカをした時も顔をつねってお兄ちゃんを泣かしたりします。悪いこと、いけないことなどは、なんとなく分かっているようです。この頃、言葉が随分はっきりしてきました。家で大きな声で「仏様…かたたたき…ミッキーマウス」等歌っています。毎日、「明日も幼稚園？」と聞くので、「そうよ」と言うとニコッと眠りにつきます。</p>	<p>A子ちゃん泣くこともなく元気でした。園庭にも遊びに行きましたが、何度も滑り台を滑ってくれました。怖くないかな？と心配したのですが、チャレンジ精神いっぱいのお気持ちを大切にあげたいと思います。</p> <p>今日、おしっこを自分で行くと言ってくれました。とっても嬉しかったんです。言葉もずいぶんはっきりしてきたようで、私達の言葉もよく理解してくれています。</p> <p>A子ちゃんすごいですね。自分でやろうとする気持ちを大事にしてあげたいですね。</p> <p>昨日のリボンは、私が（S先生）結んだんですよ。気に入ってもらってよかった！このごろAちゃんお昼寝をされています。</p> <p>サ行は難しいですね。これから楽しみにしています。A子ちゃんの周りには年長組みのお姉さんがいつもいます。かわいくて仕方がないのですね。</p> <p>言葉を覚えていく過程では、色々な言葉を覚えていくので、乱暴であったりします。でも、それをことごとく否定すると、また難しいことになりますので、自然に対応したいと考えています。</p> <p>幼稚園でも、自分の上靴は必ずはいて、外に行くときもきちんと自分の靴箱に入れる姿が見られます。「よかったね」と私は言うと、ニコッとかわいい笑顔を見せてくれます。A子ちゃんの気持ちが伝わってきます。</p> <p>A子ちゃんがかわいくてたまらなくてなんでもしてあげたいと、年長の女の子に思われるのでしょうか。少し戸惑って、手がでようとしたのでしょうか。こう言う経験を積み重ねて成長していくのだと思います。園でも注意すると涙をポロリと流されます。大好きな幼稚園でたくさんの思い出を作ってほしいですね。</p> <p>A子ちゃん、おだんご作りが大好きでよく作っています。そのおだんごを、もって帰る為の袋を「袋ください」と言えるようになりました。最初は、私たちと一緒に言っていたのですが、もう自分から伝えられるようになり、日に日に言葉がはっきりして、成長されているなど、私達も感じています。</p>

ため、補助教員を配置することにより3歳児・満3歳児の相互作用や安全管理に目が行き届くよう配慮した。調査研究委託最終年度2学期からは、入園時を増えたため、1クラスに1名の正担任と、2名の補助教員の配置を行った。

満3歳児内においてもその発達には個人差が大きく、基本的生活習慣の習得状況、興味関心、運動能力等では担任の緻密な観察と理解が求められた。日々の達成目標も幅を持たせ、教員の柔軟な対応が重要であることが認識された。これらを実現するため、園全体での満3歳児入園への取り組みを理解するとともに、配慮事項や留意点などについて十分な論議を重ね、柔軟な対応の必要性について再確認した。また、定期的に大学教授などの学識経験者が現場に出向き、満3歳児の保育観察等を通しての指導助言を行い、園内研修等を開催し、充実を図った。

④家庭との連携

満3歳児入園の実施にあたっては、3歳児との混合クラスにすることや、本事業の趣旨等について双方の保護者に理解してもらうための説明会を4月当初に行った。14年度は満3歳の在園児はいないため、ただ聞き流す程度のものであったが、15年度はすでに満3歳児が在園しているため、カリキュラム内容や補助教員の配置等丁寧に説明することにより、比較的容易に理解を得ることができた。

とくに満3歳児の日々の様子や教育相談等については、個人のお便り帳に記録するなどして、常に園と家庭との連絡を密にするよう心がけた(表2)。

4. 研究成果と課題

満3歳児を受け入れるにあたっては、3歳児との違いが理解しづらく、担当教諭を始め園内の職員にも不安があったが、実践を通すなかで3歳児との差は概ね個人差の範囲内であることも確かめられた。カリキュラム作成においても、満3歳児は学期ごとの区分ではなく、担当教諭も柔軟な対応が可能となるよう、大きく幅を持たせることとした。しかし、当然のことながら満3歳児は基本的な生活習慣レベルの援助が必要のことが多く、複数担任制の必要性も確かめられた。

満3歳児の誕生日以降の随時入園は、ある面では3歳児にも自らの成長を確かめる、良い機会となり、新

鮮さも感じられたが、反面、これらのことは教員にとってクラス運営上苦勞も多く、可能な限り、例えば学期毎にというように、ある一定の時期を区切って入園させた方がいいのではないかという感想も得た。

社会的には核家族化や少子化のなかで、人生の早期にできるだけ早期に、異年齢の子どもや多くの人々との関わりは必然的なものと考えられる。3歳児は基本的な生活習慣の自立や、人間関係の成長著しい時期でもある。年齢幅のある子ども達が共に生活することにより、幼い子への接し方、思いやりの心を育むいい機会となることが確かめられた。

Ⅲ 考 察

満3歳児入園は冒頭にも述べた通り、幼稚園入園資格として根拠をもつ事実であるが、一般常識として4月入園が事実上実行されていた。しかし、少子化に伴うさまざまな子どもの「関わり」の問題として露呈したり、養育者(特に母親)のQOL意欲が高まるにつれ、できるだけ早期の入園が望まれるようになった。それらに応えるべく本調査研究委託がなされたのであるが、結果的には一部の問題はあるものの、子どもの成長・発達の視点からは満3歳児入園は、良い結果(少なくとも大きな問題はない)が得られたと考えられる。

幼児期は成長めざましい時であり、特に3歳児においては「人間関係」という側面からはその基礎を育む重要な時期といえる。津守らは「私」の出現についての調査を行い、生後21ヶ月で29.8%、24ヶ月で44.2%、36ヶ月で66%に見られたという。他者との関係のなかで、自分というものの存在に気づき始める時期として位置付けられる。

またガーヴェイ・C.の「ごっこ」の世界によれば、3～4歳の子どものごっこ遊びは内的な一貫したルールがあり、この遊びに加わった大人は、知らない間に空想上の遊びの上に座ってしまうことになったり、服装の重要な品目を忘れて、子どもから「お母さんは、帽子をかぶっているのよ」などと指摘されることになってしまったりすることがある。さらに、自発的なごっこ遊びはその時々の子どものにとって最も目立った世界の特徴を選び出し、際立たせるとも述べている。

子どもが他者との関係のなかで、自分自身に気づき、その関係のなかで「他者」がとらえられることになる。そのことはまた他者との関係なくしては獲得できないこととも言える。事実、2歳過ぎから3歳という時代で、子どもは自分を他者から区別して認識し、ふるまうことを始める。いいかえれば、自分の存在を身体に見られる現象だけではなく、心的現象を含めて「対象」として気づくようになる。また、それまで前提としてあった「自分の思いを他者はわかってくれる」ということについて、いわば「可逆的」に気づくようになる。関係に着目していいかえれば、「自分をわかるべき存在」として他者を捉えられるようになっている。

子ども達が、自分について、そして愛着の対象であった人との間にこれらのような心的な出来事を日常生活のなかで頻繁に経験するようになったとき、子どもは3歳という時代を生きている。だからこそ、大人との関係のなかで行動することに喜びを見出すことができるようになっていけるとも言える。

もちろん、3歳の成長過程からしてもこれらの発達是一律ではない。教育課程のなかで月齢を無視することも危険であるが、逆にそれにとらわれてしまうことも危険であろう。「人間関係」は複雑な過程である。幼児期のまっただなかにある3歳においても同様である。本調査研究においてもそのことが確認された。

幼稚園教育要領の領域「人間関係」の「内容」には以下のことが記されている。

- (1) 喜んで登園し、先生や友だちに親しむ。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) 友だちと積極的にかかわりながら喜びや悲しみ

を共感しあう。

- (5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (6) 友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。
- (7) 友だちとのかかわりのなかで、言っではいけないことやしてはいけないことがあることに気付く。
- (8) 友だちと楽しく生活するなかで決まりの大切さに気付く。
- (9) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- (10) 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

幼児期の発達過程をふまえた内容であるが、概ね満3歳児では教師との十分なかかわりを持ちながら(1)～(3)の項目が達成され、(4)以降をその後の成長の姿として実践されていくことが望まれよう。

今後、必然的に幼稚園型の「認定こども園」が急増することが予測される。そこではさらに幅広い「人間関係」のありようが問われることになる。本調査研究で得られた成果が微力ながらも役立てられれば幸いである。

引用・参考文献

1. 幼児保育研究会代表／森上史朗 編『2003最新保育資料集』ミネルヴァ書房、2003
2. 津守真・稲毛教子『乳幼児精神発達診断法 0歳～3歳まで』大日本図書、1972
3. 津守真・磯部景子『乳幼児精神発達診断法 3歳～7歳まで』大日本図書、1977
4. 小川博久 編著『保育・幼児教育シリーズ 人間関係』川島書店、1994
5. ガーヴェイ・C『「ごっこ」の構造』サイエンス社、1989